

令和4年度  
第3回岡山市文化芸術推進会議における主な意見

- 1 日 時 令和4年8月2日（火） 10時00分から11時30分まで
- 2 場 所 岡山市役所 議会棟3階 第1会議室
- 3 出席者 委員 9名
- 4 傍聴者 報道 2名、傍聴者 1名
- 5 議 題 岡山市文化芸術推進計画（案）等について

6 主な意見等

- ・コーディネート機能について、公益財団法人岡山文化芸術創造は、音楽や舞台芸術に寄った活動をしているイメージがある。公益財団として全分野の文化芸術活動を網羅的にかつ等しくコーディネートしていくと解釈でよいか。  
（事務局）分野の特定はしない。
- ・公の施設として岡山シンフォニーホールと岡山芸術創造劇場ハレノワがある。プラスで美術など様々分野を網羅しながらコーディネートしていく、ということだが、主体となるメンバーはどうしていくのか。誰が担っていくのか。  
（事務局）統合前は岡山市スポーツ文化・振興財団が主に担ってきた内容。現在は劇場を所管している部門が担当しており、劇場開館時は繁忙となるため他の団体の協力も必要かもしれない。体制について今後見直していく必要があるが、基本的には現在の劇場部門が担うこととなる。
- ・今は新しくできた財団に専門的な人材が配置されて期待も高まっていると思うが、文化芸術は特に広く様々なジャンルがあるので、それぞれの分野に特化した人材がコーディネーターとして存在するという状態にはならないし、賄えないと思う。様々な分野に長けたNPOや人材の活用など、今後に向けて非常に重要になる。
- ・複数の委員から意見のあった「コーディネート機能」は気になっている。岡山市は指定管理で実施しているため、指定管理のターゲット設定によっては、いかようにも変わってくるという話になるし、全国的には指定管理者が変わって施設の活用が大きく変わったという事例がたくさんある。本論とは外れるかもしれないが、ぜひ市のほうでも、この内容をうまく反映できるような指定管理の設定をお願いしたい。
- ・岡山シンフォニーホールや岡山芸術創造劇場ハレノワが自立していく中で、岡山シテ

イミュージウムや市立オリエント美術館の企画・研究機能について、さらに担保していく必要があるのではないかと検討をお願いしたい。

- ・「魅せる」のところで「質の高い」とあるが、「誰もが気軽に」質の高い文化芸術を鑑賞できる機会というのが大事。一部の人がハレノワとかシンフォニーの高額なコンサートに行くでは意味がない。条例ができた意味も、推進計画を策定するのも、そこに期待する。
- ・親子で楽しむコンサートとかシンフォニーは友達とかは具体的な記載ではあるが、音楽に特化したように感じられる。大きな施設の事業だけでなく、小さな空間でのノンバーバルな演劇など、未就学児も十分楽しめるジャンルもかなり増えている。もう少し広げて記載してもいいのではないかと。
- ・岡山市にゆかりのある偉人の顕彰として、「坪田譲治文学賞」の実施や学校と連携した取組を行っているが、さらに広げ、深めて、岡山市民が常に坪田譲治に触れ、坪田譲治を感じ、坪田作品を読んで知っている、という状態にしたい。具体的には、副読本の作成、作品をイメージした絵や小説の書き出し部分を載せた包装紙の開発、市内公共交通機関内への掲示などが想定される。
- ・文化施設の状況を知ってもらう必要がある。現状を知ることができるリーフレットやパンフレットが配付されるとよい。空間の面積、席数などを活動に必要な情報を団体やフリーランスに知らせてほしい。
- ・文化芸術団体や芸術家が、岡山市の文化芸術団体の認定請求や文化施設の状況を知らないというのはよくないが、もっと岡山市も広く、また折に触れて知らせていくべきではないか。担い手を支え、活発な活動に繋がる。前にも触れたが、桃太郎通りには蛭田二郎先生の作品がそれとなく、しかも何点も設置されている。日本藝術院会員である先生の作品がこれほど至るところに設置された道路がほかにあるだろうか。色々な面で文化とか芸術の香りが非常にするまちだと感じている。もっと上手にPRをしていけば、色々と広がってくる。
- ・学生はほとんどSNS。文化施設のフォロワー数がとても少ない。学生に聞いたら改善点がたくさん出てくると思う。情報発信の在り方が変わってきている。工夫していくことで、若い人たちにみてもらう可能性は一気に広がる。検討をお願いしたい。
- ・推進計画の趣旨とか策定の目的が都市の戦略として機能し、市民がより身近なものとして文化を感じ、体験していくことを希望する。この推進計画も結果が出るのは5年後、10年度になる。私たちがコーディネートした甲斐があったと思えるようなものにしていきたい。
- ・今回の案と意見で、今後の感触を感じている。十分至れり尽くせりというのは難しいが、少しでもいろんな市民の声が聞ける状況となるようお願いしたい。

- 推進計画については、基本的にこの方向でよいと思うが、これからの方向性について。行政自体が主導して色々な文化芸術事業を直接実施する時代ではないと感じている。大阪市はすでに地方独立行政法人を実施している。誰もが文化芸術と関わる機会が増えるとか、市民に質の高い文化芸術をととか、市民が文化芸術を誇りに思いながら、享受して、住み続けられる岡山市にしていくとか、そういうことを考えたときには、むしろ行政はできるだけスリムにして、どうしてもしなければならないことだけをする。学校教育の中で、公立学校の部活動、運動部だけでなく文化部も、これから議論になる。教育委員会は本当に教育だけをやるという形が理想ではないか。基本的にアウトソースは打ち出されている。特に文化芸術に関してはそういう方向性を持って、外にきちんとした大きな組織として出していく、これから担い手をどう育てていくか、優れた人材を養成して、任せていく、というような考え方が必要になってくる。財政規模の問題があり、どこまで可能かは難しいし、また、今日の推進計画の議論より先に進んでしまうかもしれないが、今後の方向性として考えてもよい。